

知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

1 団体名

(公財) 東京都農林水産振興財団

2 実施日時

10月4日(金) 11時29分～11時49分

3 団体出席者

- ・団体側出席者：影山理事長、望月理事、
上林山農林水産部長(産業労働局)
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長
小林行政改革推進部長

4 議事概要

○小池知事

農業に関する問題点はたくさんあるが、東京の農家において相続税の問題は大きい。

○影山理事長

区部では特に相続税の問題は切実だと思うが、多摩地区でもやはり農地を手放すという農家が増えている。

○小池知事

2022年問題が目前である。担い手がいなくて厳しいため、相談等にしっかりと取り組んでいただきたい。

現在、木材については、どんな市況になっているのか。

○影山理事長

市況は低値安定といったところ。林業も担い手不足という問題がある。他県も似たような状況のようだが、特に多摩地域は不足している。

多摩地域の地形は急峻のため、ケーブルの架線集材をしないと木が下ろせない状況であるが、架線の技術者が少ない。他県から応援に来てもらっているが、それでもまだ少ないため、高度林業技術者を育成することも林業分野では課題だと思う。林業アカデミーのようなものを構想している。

○小池知事

オーストリアの林業は山が急峻であり、ロボットが間伐等の作業をすると聞くが、いかがか。

○影山理事長

東京の山は小規模であり、コストに見合うかが一つのネックである。また、大型林業機械が入れられないような急峻なところがある。スマート林業について検討していきたいと思う。

○遠藤総務局長

東京フューチャーアグリシステムは、都が進めている society5.0 や 5 G の関係で、発展の余地と方向性があれば教えていただきたい。

○望月理事

東京の農地は分散しているため、分散農地を遠隔的に制御できる仕組み、これは完全に情報技術になると思う。

また、省エネ化について、ハウスに合うような太陽電池を使い施設内の整備をしていくことで、より高度な方に持っていきたい。5 G の活用でより高度な制御の可能性が出てくるのではないかと思い、それも検討していく。

○小池知事

市況が低迷しているというが、林野庁などから聞くと、最近では日本の木材が海外にも輸出されているということである。

○影山理事長

売れているのは、価格の安い木材などであり、もっと付加価値の高い木材を海外に出荷することが課題だ。市況は確かに下げ止まっているが、東京都の補助をなくして産業として独立するためには、もう少し木材価格が上がってこないかと思っている。そういう意味で、森林環境譲与税も創設されるので、木材利用の面で税を有効活用していくことが必要である。